

## 2004年6月の東北地方の天候

### 【6月の特徴】

- ・高温、東北太平洋側の多照
- ・台風第4号、台風第6号の日本への上陸

#### (1) 2004年6月の概況

7日頃に東北北部、南部ともに梅雨入りしたとみられるが、梅雨前線の活動は不活発で、中旬にかけては高気圧に覆われて晴れる日が多かった。また、台風の北上や南から暖かい空気が流れ込んだため、6月は高温となった。一方、オホーツク海高気圧はほとんど現れず、東北太平洋側は多照となった。

太平洋高気圧は、平年に比べて北への張り出しが強く、西への張り出しが弱かった。このため、台風は太平洋高気圧の縁に沿って進み、台風第4号と第6号が日本へ上陸した。

月平均気温は高い。月降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で少ない。月間日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。

#### (2) 各旬の天候経過

上旬： 上旬の中頃まで高気圧に覆われ概ね晴れの日が続いた。7日頃から北上してきた梅雨前線の影響で曇りや雨となったが、上旬の終りには高気圧に覆われて晴れる所もあった。  
なお、7日頃に東北北部、南部とも梅雨入りしたとみられる。  
平均気温は東北北部で高く、東北南部で平年並。降水量は東北北部で少なく、東北南部で多い。日照時間は多い。

中旬： 中旬の初めは、台風第4号から変わった低気圧や梅雨前線の影響で東北南部を中心に曇りや雨となったが、中頃は高気圧に覆われ概ね晴れの日が続いた。中旬の終りは、梅雨前線の影響で東北北部を中心に曇りや雨となった。  
平均気温は東北北部で高く、東北南部で平年並。降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で少ない。日照時間は東北日本海側で多く、東北太平洋側でかなり多い。

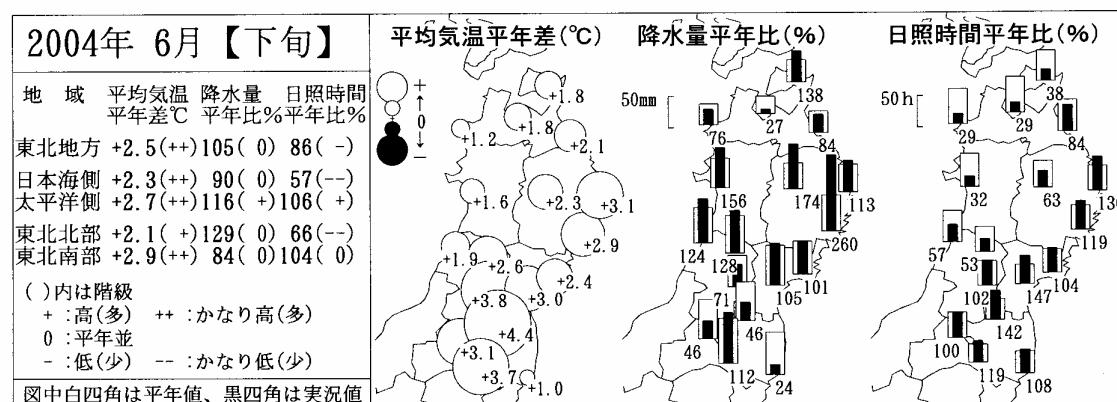
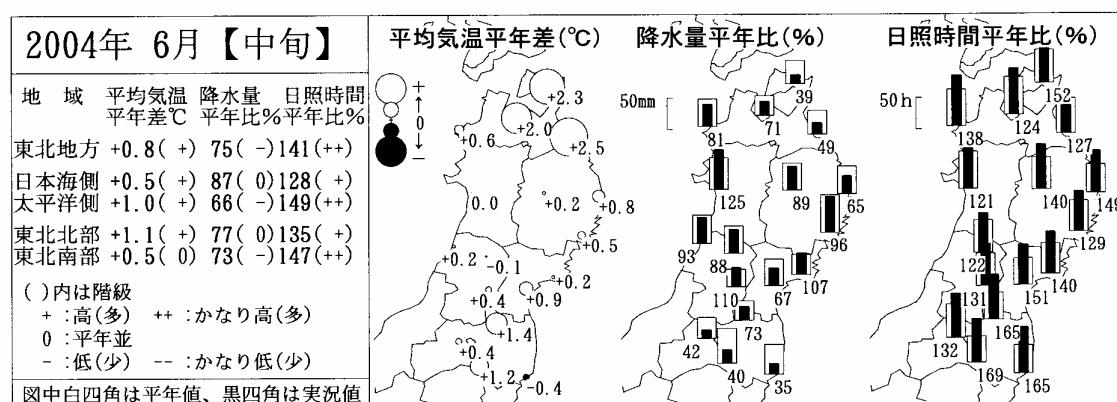
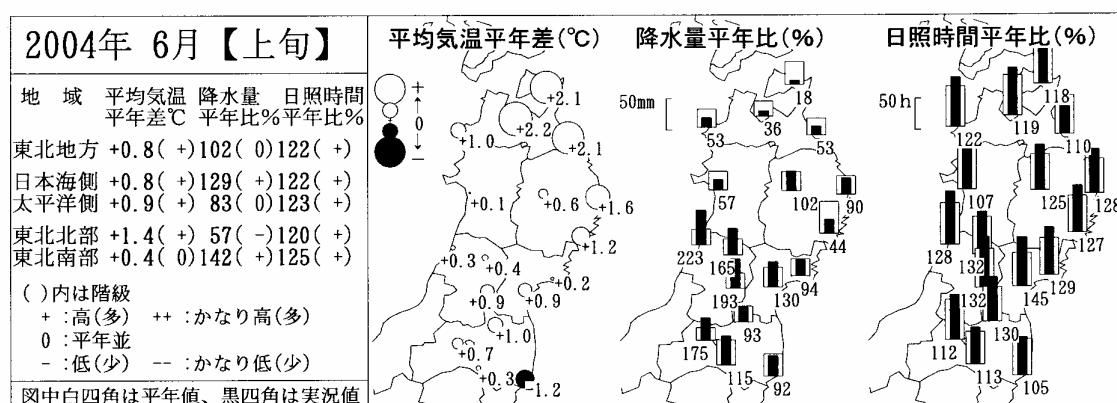
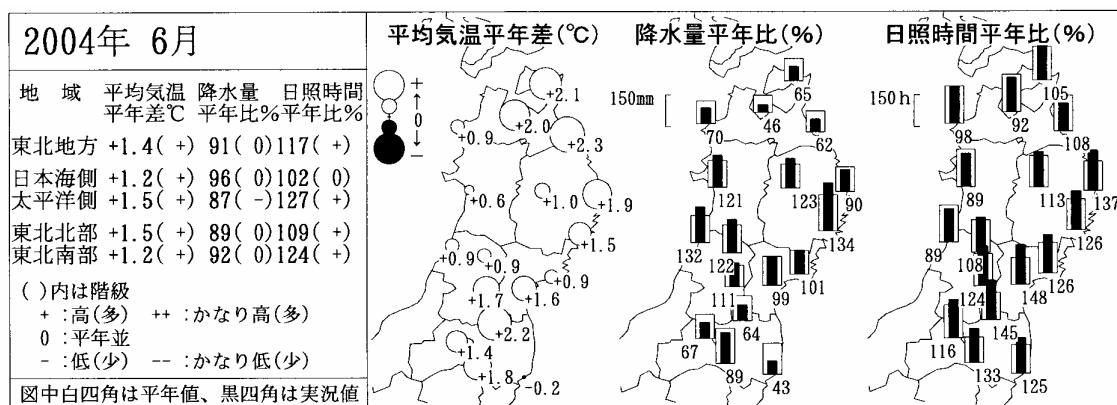
下旬： 21～22日は、四国に上陸し日本海を北上した台風第6号の影響で大雨や暴風となる所があった。台風通過後は東北太平洋側で概ね晴れたが、東北日本海側は気圧の谷の影響で曇りや雨となった。下旬の中頃から、梅雨前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多く、28日以降は、寒気の影響で各地で雷雨となり、降ひょうや突風により農作物に被害が出る所があった。

台風の北上や南から暖かい空気が流れ込んだため、東北南部を中心に真夏日となる日が多く、21日は酒田で日最高気温が31.8と6月の極値を更新した。

平均気温は東北北部で高く、東北南部でかなり高い。降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。日照時間は東北日本海側でかなり少なく、東北太平洋側で多い。

注) 気候統計値は、東北地方にある17地点の気象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。  
細分地域については2ページ目脚注を参照して下さい。  
平年値の統計期間は1971-2000年です。階級区分については、3ページ目脚注を参照して下さい。

(3) 2004年6月の月・旬平均(合計)値の平年差(比)



注) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

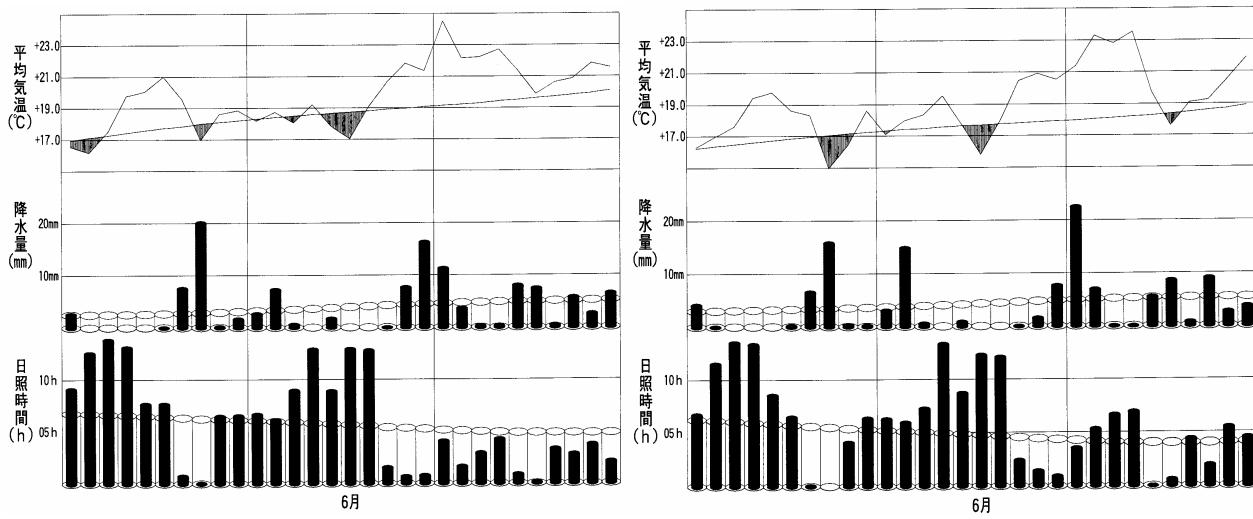
東北南部：宮城県、山形県、福島県

( 4 ) 2004 年 6 月の月気候表

地 点	月平均気温(平年差) 階級	月降水量(平年比) mm % 階級	月間日照時間(平年比) h % 階級
青 森	19.0 (+2.0) + *	38.0 ( 46 ) -	166.6 ( 92 ) 0
深 浦	18.1 (+0.9) +	77.0 ( 70 ) 0	176.6 ( 98 ) 0
む つ	17.7 (+2.1) + *	70.5 ( 65 ) 0	170.5 ( 105 ) 0
八 戸	18.4 (+2.3) + *	61.5 ( 62 ) -	182.5 ( 108 ) 0
秋 田	19.4 (+0.6) +	154.0 ( 121 ) +	158.9 ( 89 ) -
盛 岡	19.2 (+1.0) +	141.0 ( 123 ) +	171.0 ( 113 ) +
大 船 渡	18.8 (+1.5) +	230.0 ( 134 ) +	186.3 ( 126 ) +
宮 古	17.9 (+1.9) +	105.0 ( 90 ) 0	192.1 ( 137 ) + *
仙 台	19.9 (+1.6) +	136.5 ( 99 ) 0	189.1 ( 148 ) + *
石 卷	18.6 (+0.9) +	112.5 ( 101 ) 0	184.1 ( 126 ) +
山 形	21.2 (+1.7) +	113.5 ( 111 ) +	190.3 ( 124 ) +
新 庄	19.6 (+0.9) +	159.5 ( 122 ) +	164.6 ( 108 ) 0
酒 田	20.2 (+0.9) +	169.0 ( 132 ) +	157.4 ( 89 ) -
福 島	22.1 (+2.2) + *	75.0 ( 64 ) -	188.7 ( 145 ) + *
若 松	21.2 (+1.4) +	78.0 ( 67 ) -	182.5 ( 116 ) +
白 河	20.2 (+1.8) +	148.5 ( 89 ) 0	162.7 ( 133 ) + *
小名浜	18.1 (-0.2) 0	65.0 ( 43 ) - *	173.6 ( 125 ) +

観測値欄の記号は、×：欠測 ）：欠測日を含む 一：現象なし ---：観測をしていない  
階級は +：高い(多い) 0：平年並 -：低い(少ない) \*は「かなり」を表す

( 5 ) 2004 年 6 月の日別経過図



東北日本海側の日別経過図  
東北太平洋側の日別経過図  
気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均 ( 気温 : 実線と点線、降水量・日照時間 : 黒い円柱と白抜き円柱 )

注) 階級は「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の 3 階級とし、それぞれの階級幅は、1971~2000 年の 30 年間ににおいて出現した値を等確率 (33.3%) に区分しています。また、低い(少ない)方または高い(多い)方から出現率 10% の範囲を、それぞれ「かなり低い(少ない)」、「かなり高い(多い)」と表し、補足的に用います。本資料の本文にある階級の表現も、「かなり低い(少ない)」、「かなり高い(多い)」に該当する場合はそのように記述し、細分地域により階級表現が異なる場合は地域を細分して記述しています。

( 6 ) 2004 年 6 月の極値・順位の更新  
( 月平均気温、月降水量、月間日照時間の 3 位まで。 )

月平均気温 高い方からの極値・順位更新

順位	地点名	気温( )	これまでの最高( )(起年)	統計開始年	平年値( )
2 位	む つ	17.7	18.2 (1991 年)	1935 年	15.6
3 位	青 森	19.0	19.8 (1991 年)	1886 年	17.0
	新 庄	19.6	20.5 (1991 年)	1986 年	18.7
	福 島	22.1	22.9 (1979 年)	1928 年	19.9

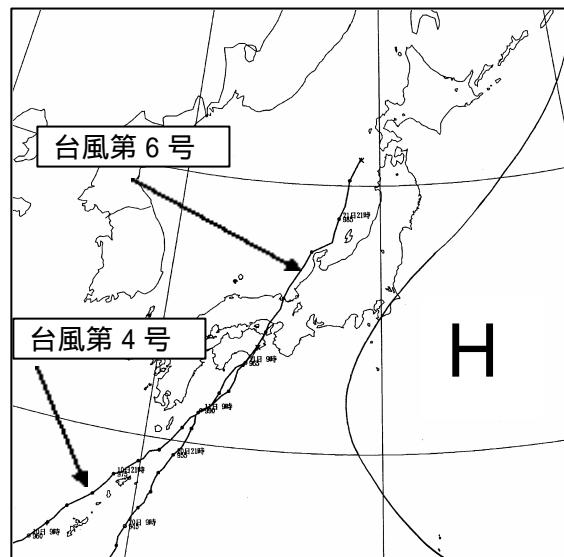
( 7 ) 2004 年 6 月の主な台風

6 月は、平年に比べ太平洋高気圧の北への張り出しが強く、西への張り出しが弱かった。台風は太平洋高気圧の縁に沿って進み、11 日には台風第 4 号が四国付近に上陸し、その後温帯低気圧に変わった。

また、21 日には台風第 6 号が四国付近に上陸した後、日本海を北上したため、東北地方では大雨や暴風となる所があった。

21 日の日最大風速は石巻で 20.3m/s( 南東 ) 、日最大瞬間風速は仙台で 25.5m/s( 南 ) 、石巻で 29.5m/s( 南東 ) 、若松で 24.7m/s( 東 ) 、白河で 29.5m/s( 南 ) と、いずれも 6 月の極値を更新する暴風となつた。

なお、6 月に 2 個の台風が上陸したのは、1951 年以降では 1997 年以来である。



2004 年 6 月の主な台風の経路図  
実線は 1012hPa の等圧線

今年と平年の月別の台風発生数と上陸数 ( 2004 年 6 月 30 日現在 )

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
発生数	今年				1	2	5							
	平年	0.5	0.1	0.4	0.8	1.0	1.7	4.1	5.5	5.1	3.9	2.5	1.3	26.7
上陸数	今年						2							
	平年						0.2	0.5	0.9	0.9	0.1	0.0		2.6

( 8 ) 参考資料

2004年(平成16年)梅雨入り・梅雨明け

地方	梅 雨 入 り			梅 雨 明 け		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
沖縄	5月 5日頃	5月 8日頃	5月 15日頃	6月 23日頃	6月 23日頃	6月 20日頃
奄美	5月 13日頃	5月 10日頃	5月 13日頃	6月 24日頃	6月 28日頃	6月 27日頃
九州南部	5月 29日頃	5月 29日頃	6月 9日頃		7月 13日頃	7月 22日頃
九州北部	5月 29日頃	6月 5日頃	6月 9日頃		7月 18日頃	7月 31日頃
四国	5月 29日頃	6月 4日頃	6月 10日頃		7月 17日頃	7月 31日頃
中国	5月 29日頃	6月 6日頃	6月 10日頃		7月 20日頃	7月 31日頃
近畿	6月 6日頃	6月 6日頃	6月 10日頃		7月 19日頃	8月 1日頃
東海	6月 6日頃	6月 8日頃	6月 10日頃		7月 20日頃	7月 31日頃
関東甲信	6月 6日頃	6月 8日頃	6月 10日頃		7月 20日頃	8月 2日頃
北陸	6月 7日頃	6月 10日頃	6月 12日頃		7月 22日頃	8月 1日頃
東北南部	6月 7日頃	6月 10日頃	6月 12日頃		7月 23日頃	特定せず
東北北部	6月 7日頃	6月 12日頃	6月 12日頃		7月 27日頃	特定せず

梅雨は季節現象であり、その入り明けは、平均的に5日間程度の「移り変わり」の時期があります。

1)平年の時期は1971年～2000年、昨年の時期は事後検討結果の月日。

2)遷移期間を含んでいるため単純に平年と比較できない。やむを得ず使う場合は「遷移期間の概ね中日で比較して「日程度早い」とする。」

解説用階級区分値

		かなり早い	平年より早い	平年並	平年より遅い	かなり遅い
梅雨入り	東北南部	～6月 3日	～6月 7日	～	6月 12日～	6月 19日～
	東北北部	～6月 4日	～6月 9日	～	6月 14日～	6月 22日～
梅雨明け	東北南部	～7月 14日	～7月 20日	～	7月 27日～	7月 31日～
	東北北部	～7月 14日	～7月 22日	～	7月 31日～	8月 8日～

なお、本年の梅雨入り・梅雨明けについては、当までの天候経過及び数日から一週間程度の天候の予想に基づいて速報的に発表した値です。後日、それまでの天候経過を考慮して梅雨入り・梅雨明けの時期を事後検討し、確定して発表しています。